

平成29年度 FD 研修会開催について（報告）

報告：企画広報室 堀江

アンケート集計：企画広報室 三上

- 1 日時：平成30年2月1日（木）10：40～12：10
- 2 場所：本学E棟4階402講義室
- 3 講師：村田 晋也 氏（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）
- 4 参加者：教職員 33名（参加者・アンケート結果については添付参照のこと）
- 5 内容：「アクティブラーニング：ジグソー学習法を用いたグループワークの進め方」（添付資料参照のこと）

1) 目的：これまで「アクティブラーニング」は、一定の知識を持った学生を対象に、15回の授業の中では主に後半の回で用いる手法という印象であったが、「導入のヒント・アイデア」として、前半の回でも用いることができるように、知識習得型の授業法の1つとして「ジグソー学習法」を習得する。

また、「他人と協力、主体的・論理的思考力」を授業の中に取り入れて、教育や学生とのコミュニケーションを通して相互に学習を進める手法を習得する。

2) 手法：

- ①グループに分かれる（5人）。
- ②個人読解（課題・教材についてそれぞれが分担して読む）
- ③エキスパートグループ・セッション（各グループで、同じ分担を担っている者が集まって課題・教材について内容理解・協議を行う）
- ④ジグソーグループ・セッション（③での内容を自分のグループに持ち帰って、それを共有し、課題・教材に取り組む）

3) アロンソンによるジグソー学習法利点

心の共感

- ①一緒に取り組むことにより、学習者が相互に好意を持つ→
学校を好きになる→相手に教えることにより、自尊心が高まる
- ②競争意欲の低下（協調性の向上）
- ③他の学習者から学ぶことにより、信用・信頼が育まれる

学業

- ④「教える」「教えられる」という2つの立場を体験することにより、課題・教材についてより深い理解を得られる
- ⑤学習能力の高い学生は教えることで能力が向上する
- ⑥学習能力の低い学生は知識体得能力が向上する
- ⑦①～⑥を通して、学習者は他人の目で物事を見て考える能力を体得することができる

4) 学習導入の6つのヒント

- ①教材選び：問題解決学習ができるもの、表現活動が組めそうなものを選ぶ。
- ②班編成：3～4名が最適。5名以上は多すぎる。男女混成、学力は上位・中位・下位を出来るだけ均等にする。学習意欲は高い・低い学習者を出来るだけ均等にする。
- ③学習に入る前にすること：協働で学習することの素晴らしさを伝える、目標や学習の流れを明確にする、感想→評価を聞く。
- ④学習に「必然性」をつくる：課題が本当に学習者のものになっているか、学習の形・交流の仕方に学習者が必要性を感じているか確認する。
- ⑤1枚の絵になるか：学習の流れの中で、分担してきたものを最後に組み合わせたとき1つの全体像が見えることが重要である。
- ⑥教師の役割を知る：主な役割はコーディネーターである。

5) その他

- ①講師が所属する愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室では、「学生能力開発」「FD」「SD」を主な分野として各地で研修・講演を行っている。また、学生には「人間力を鍛える、学外・国外で活躍できる人材を育てる」ことを目標としている。
- ②依頼される研修・講演のテーマで多いものは「大人数講義について」「ティーチングポートフォリオ」「スタッフポートフォリオ」「授業評価アンケート」等である。

以上

画像

